

其景は在るも『青山盡是朱旗繞』は更に夢にだに見るべくもあらず。然れども獨り
溫泉のみ今に存し、浴客日々麤集す予も亦之に浴みて、渡清以來の垢を洗ふ。嗚呼
唐の皇帝か豪奢を極めし離宮、絶世の美人揚貴妃か浴後玉欄干に倚りし名蹟も、今
や東西南北人が混浴の場と化せり。山河自ら舊態を改め、當年榮華の蹤、復た覓む
べからざる、豈偶然ならんや。

西上長安數十程 夕陽下馬浴華清

渭河水落微漁火 秦嶺月高多鹿鳴

過雁斜排一字陣 啼鴉寒作六宮聲

餘香千載猶溫膩 也爲行人濯佩旌

此地又東南約一里の處に、秦の始皇帝の驪山陵を存す。遠く之を望めば、宛然高
丘の如し。官衙には縣衙門、警察局、郵便分局等、學校には、小學堂一、宗教は耶蘇教徒
約四百名、人民は概して怠惰且つ輕薄にして健訟の風ありと云ふ。多く柿を産す。
飲用水は總て井水、銀一兩を一千百七十文に換算す。

六日午前八時四十五分臨潼を發し、チャンコウ姜溝(人家約十戸穴)張家鋪(人家約十戸)を経て、シユエ雪